

## 8. 第16回バドミントン競技実施要項

(下線は改正箇所)

### 1. 競技種目

シングルス 男子シングルス1部・2部 女子シングルス1部・2部  
ダブルス 男子ダブルス1部・2部 女子ダブルス1部・2部 混合ダブルス

### 2. 競技規則

大会開催年度の(財)日本バドミントン協会競技規則並びに本大会運営規定による。

### 3. 出場資格

- ①一部と二部に区別する。一部は過去の大会でベスト8以上か、国際大会出場を目指す選手(ベスト9以下も可)。二部は、一部を希望しない選手。一部に登録した選手は、二部に申し込むことが出来ない。
- ②出場人数について、加盟団体毎に参加制限をしない。
- ③同一選手は、2種目までエントリーできる。
- ④ダブルスのペアは、加盟団体内で組めない場合、大会競技実施要項規定6の(2)により、ブロック外の他県選手と組むことが出来る。

### 4. 競技方法

各種目ともトーナメント方式で行う。但し、参加状況により、予選リーグ、決勝トーナメント方式で行うことがある。競技方法の決定は競技主管で行う。

### 5. 使用シャトル

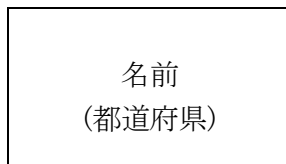
(財)日本バドミントン協会検定合格品とする。

### 6. 組み合わせ

- ①参加申込み締切り後、実行委員会において審判長立会いのもとで、代理抽選により決定する。
- ②男女シングルスは前回4位まで、ダブルスは混合ダブルスを除いて男女とも前回2位までをシードする。

### 7. 競技服装

- ①服装は(財)日本バドミントン協会審査合格品を着用するものとする。
- ②選手は着衣の背部にゼッケンをつけるものとする。
- ③ゼッケンの名前で読みにくいものはふりがなをつける。



たて 18cm

よこ 25cm ※白地に黒字

### 8. 表彰

各種目とも、競技終了後閉会式において行う。

## 9. 注意事項

- ① 全種目において、ラリーポイント制とし、21点で2ゲーム先取3ゲームマッチとする。
- ② 21点を先取したサイドがそのゲームでの勝者となる。ただし、20オール、29オールの場合は除く。  
20オールになった場合、その後最初に2点リードしたサイドが勝者となる。29オールになった場合、30点目を得点したサイドが勝者となる。
- ③ 試合の1ゲームと2ゲームの間に90秒を越えないインターバルを、そして第2ゲームと第3ゲームの間に5分を越えないインターバルを認める。
- ④ 選手はコールを受けた後、5分以内にコートに入ること。
- ⑤ 審判員の判定に対して疑問のある場合は当該プレーヤーに限り質問することを認める。ただし、抗議あるいは異議であってはならない。
- ⑥ タイムテーブルはあくまでも予定時間であり、時間が早まる場合もあるので、場内放送(提示)に特に注意すること。
- ⑦ 審判員の合図について
  - (1) 「アウト」は両腕を水平に広げて合図する。
  - (2) 「イン」は右手でそのラインを指す。
  - (3) 「フォルト」は手を軽く握り、親指を立てて前につきだす。
  - (4) 「レット」(無効を意味し、やり直し)は、両手を軽く握り、親指を立てて前につきだす。
  - (5) 「エンドの交代」は、両手を左右に伸ばし、それを前で交差させて示す。
- ⑧ プレーヤーは次の行為をしてはならない。
  - (1) プレーを故意に遅らせたり、または中断すること。
  - (2) シャトルのスピードや飛び方を変えるために故意にシャトルに手を加えたり破損したりすること
  - (3) 見苦しい服装でプレーをしたり、審判員や観客に対して横柄な振る舞いをしたりするような、下品で無礼な態度、言動
  - (4) ラケットや体でネットなどのコート施設を叩くとか、耳障りな掛け声や叫び声を発するなど、競技規則を越えた下品行または不快な行動。

## 10. 本要項の改正

- ・一部改正 2004年2月22日 第6回全国委員会
- ・一部改正 2007年7月28日 第1回本委員会

### 【本大会申し合わせ事項】

1. 一部に出場するすべての選手は補聴器を使用してはならない。  
デフリンピックの選考大会にあたるため、補聴器使用を認めない。
2. タトゥーを付けている選手はサポートなどで隠してプレーをすること。  
規則に書いてあるとおり、みだらな服装と同じと考える。
3. 一部の選手と二部の選手がダブルスでどうしても組むなら、一部の試合に出ること。  
問い合わせが多くあったため。